



発行 自衛隊札幌病院
豊友会事務局

第74号
令和6年8月



「着任にあたり」

自衛隊札幌病院長

陸将 川口 雅久

4月1日付で自衛隊札幌病院長を拝命しました川口陸将です。輝かしい歴史と伝統を有する自衛隊札幌病院で勤務する機会をいただいたことはこの上ない喜びであるとともに、その重責に身の引き締まる思いです。

昨今のわが国を取り巻く安全保障環境が、先の大戦後最も厳しい状況にあることは論を俟たないと思います。特に南西正面への備えに注力する一方、ウクライナの現状や周辺国

からの弾道ミサイル等の度重なる発射などを見るにつけ、北方の備えもゆめゆめ怠るわけにはまいりません。このような情勢を鑑み、一昨年の年末、いわゆる『三文書』が策定されました。この中には共通基盤の強化の一環として、衛生に関して『衛生機能の変革』という項目が盛り込まれています。この『変革』という極めて強い表現が使われていることに、防衛省・自衛隊としての期待と覚悟が如実に示されていると考えます。

そこで、着任にあたり、統率方針を『期待に応え得る自衛隊病院の具現化』としました。いわゆる地区病院の中では最大規模を誇る札幌病院は、北部方面隊区域に所在する唯一の自衛隊病院としての役割のみならず、地区病院のリーダーとして他の病院を牽引するする立場にあり、そのために期待される任務・機能を正確に把握・分析し、対処していく必要があります。そして、課題を検討するだけで終わることなく、実現可能な対応策を立案し、具現化して、一步ずつでも状況を前進させることが重要であると思料します。その際、病院職員には「適時性・的確性・疎通性」を要望しました。適切なタイミングで、正確かつ適正に、相手との意思疎通を十分に行って業務等を実施してもらいたいと思います。

来年、自衛隊札幌病院は開院70周年を迎えます。歴代病院長をはじめとする諸先輩が築き上げてこられた歴史と伝統を大切にしつつ、時代の要請および国民からの期待に応えるべく、進取果敢の精神で先頭に立ち、職員とともに職務に邁進する所存です。

引き続きのご協力とご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



「会長の挨拶」

自衛隊札幌病院豊友会

会長 今井 智仁

だんだんと本州化してくるような北海道の夏、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年度より会長の任を承りました今井智仁です。鳥越前会長の後任として引き受けたいしましたが、自分らしく自然体で豊友会の代表を努めてまいりたいと思っております。改めて自己紹介させていただきますが、防衛医大7期(1986年卒)で函館ラ・サール出身。卒後研修医後に初めて札幌

病院勤務し、2年間の勤務後、10年経ってから体育学校を経て2000年にふたたび札幌病院にもどり、整形外科医として12年間勤めさせていただきました。その後、民間に下りましたが以後も札幌病院の診療支援を続けさせていただいております。現在は週に一回の外来を行っております。その間に、患者さんの世代交代も進み、3代にわたり関わっている方もおられ、改めて自らの長い道のりを実感させられることもあります。

気が付くと、このような立場を仰せつかるようになり、自分ではミスマッチのような感覚です。しかしながらこれも相応の役回りなのだろうと納得させています。

そんな折も折、今年度から札幌病院新院長となられた川口先生とは整形外科の同門でもあり、数多いOBの中でも非常に近い関係性があり、ますます豊友会と札幌病院の関係が近くなることと思っています。

この文章を書いている今、パリオリンピックでの日本選手の活躍が連日のように伝えられて、眠れない夜を過ごしておられる方も少なくないのではないかと思います。

選手が長い時間と努力を重ねてあの舞台に立っているだけでも称賛に値すると思いますが、さらにメダルにつながるような活躍にはただただ頭が下がります。才能があるだけではあの高みには達することはできません。日々の弛まぬ精進があればこそと思います。その過程は順風満帆ではなかったでしょう。それでもあきらめず継続してきたその結果なのだろうと思います。大会での結果は悲喜こもごもですが、そんな中で感じさせられるのは基本の大切さではないでしょうか。フィジカルと言われたりもしますが、相撲でも基本は四股鉄砲股割だと言われます。我々の日々の仕事でも基本の大切さを感じることはあります。そしてそれは技術だけにとどまらず、向かう姿勢にも同様のことが言えるでしょう。

診療するにあたり、この人には何が起っていて何が必要なのか。何をしたら最適なのか。我々の基本は常にそこにあり、そのために磨いてきたもの、磨いていかねばならないものがあります。そして、有技者、有資格者の方たちはそれぞれ、テキストには載っていないものを持っていると思います。それを伝えていくことができればさらに役に立つことができると思います。

私たちは札幌病院を基として集っていますが、少しでもその「持っているもの」を還元することができたらと考えています。札幌病院だけでなく社会にもそのニーズはあるでしょう。

あらためて今、自らができることを誇りをもって再認識していただけたらと思っています。

《令和5年度人事異動等》

夏の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
総務部	1曹	関口 久登	北部方面総監部付隊
看護部	2曹	山ノ内 雅人	訓練評価支援隊
総務部	2曹	小梨 誠也	北部方面会計隊
衛生部	3曹	千葉 豊之	北部方面衛生隊

春の異動「転出者」(事務官等)

所 属	階級等	氏名	転出先
診療部	行(一)3	花田 明香	北海道補給処
企画室	行(一)1	飯野 晃司	防衛大学校
総務部	行(一)1	北 昌晃	第8島地方協力本部

春の異動「転入者」(事務官等)

転入先	階級等	氏名	元勤務
診療部	行(一)3	齊藤 多美子	東千歳駐屯地業務隊
企画室	行(一)1	秋田 凱斗	中央会計隊

春の異動「新規採用」(事務官等)

転入先	階級等	氏名	元勤務
総務部 (再任用)	行(一)3	吉田 和弘	北海道補給処

令和5年度「定年退官者」

自衛官 : 藤澤 利光 (9/16)
 中野 純子 (9/18)
 石坂 岳士 (9/22)
 田中 一要 (3/18)
 岩澤 慶子 (3/18)
 尾池美穂子 (3/18)
 藤澤 勝啓 (3/18)
 事務官 : 佐藤 美幸 (3/31)

春の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務先
総務部長	1佐	岡本 宗典	京都地本
看護部長	1佐	九旗龍振 秀子	中央病院
診療科	2佐	田村 宏光	陸上幕僚監部
看護部	2佐	秋又 千春	中央病院
資材部長	2佐	宮北 和歌子	北海道補給処
看護部	3佐	佐藤 真裕美	仙台病院
看護部	1尉	山本 千歳	中央病院
総務部	1尉	服部 竜太	施設学校
診療科	1尉	山尾 正倉	普通科駐屯地業務隊
看護部	1尉	井上 奈々恵	北部方面衛生隊
看護部	2尉	西 菜摘	中央病院
看護部	2尉	深尾 沙秋	北部方面衛生隊
総務部	2尉	横堀 友直	第1通信大隊
看護部	2尉	田中 勇次	第2後方支援連隊
総務部	2尉	欠口 豊	函館駐屯地業務隊
資材部	3尉	田中 誠一郎	北部方面衛生隊
総務部	准尉	菅原 勝美	北部方面後方支援隊
診療部	准尉	鈴木 肇枝	北海道補給処
診療部	曹長	齊藤 宏樹	岩見沢駐屯地業務隊
看護学院	曹長	竹村 秀大	北部方面衛生隊
看護部	1曹	堀 浩司	対特殊武器衛生隊
診療部	1曹	松田 恵美	北部方面衛生隊
総務部	2曹	近藤 博政	北部方面会計隊
総務部	2曹	飯山 直樹	第11高射特科隊
看護部	2曹	盛山 慎吾	第2後方支援連隊
診療科	3曹	白土 あみ美	第2戦車連隊

夏の異動「転入者」

転入先	階級等	氏名	元勤務
救急科部長	1佐	永田 高志	中央病院
歯科部長	1佐	杉本 淳	中央病院
診療科	3佐	山本 翼	対特殊武器衛生隊
衛生部	3佐	徳増 尚子	阪神病院
看護部	1尉	佐藤 純子	札幌駐屯地業務隊
看護部	1尉	高橋 裕香	第7師団司令部
看護部	1尉	青田 三奈子	中央病院
看護部	1尉	山本 貴明	北部方面総監部
総務部	1尉	六渡 知子	第2師団司令部
診療科	1尉	山本 美博	衛生学校
診療科	1尉	本光 恵太	衛生学校付
診療科	1尉	舘川 尚幸	衛生学校付
診療科	1尉	刈谷 彰吾	衛生学校付
診療科	1尉	内藤 朱美	衛生学校付
診療科	1尉	河越 謙	衛生学校付
看護部	1尉	赤松 一紀	那覇病院
資材部	1尉	金子 真矢	北部方面衛生隊
診療科	2尉	森原 弘幸	北部方面衛生隊
看護部	2尉	水庫 志緒	仙台病院
診療科	2尉	江南 慧	衛生学校付
診療科	2尉	鹿村 祐貴	衛生学校付
診療科	2尉	丹原 悠貴	衛生学校付
診療科	2尉	西澤 夏海	衛生学校付
診療科	2尉	藤田 祐也	衛生学校付
企画室	准尉	山田 哲也	衛生学校
総務部	1曹	嶋田 秀夫	第27普通科連隊
診療科	1曹	大西 康央	中央病院

春の異動「転出者」

所 属	階級等	氏名	転出先
資材部長	2佐	菊地 道人	那覇病院
診療科	2佐	白石 安水	防医大病院
看護部	2佐	沙田 恵	衛生学校
総務部	3佐	増田 俊彦	第1特科団
総務部	1尉	中内 英人	会計監査隊
看護部	1尉	磯 洋美	仙台病院
看護部	1尉	鶴岐 佳奈子	北部方面衛生隊
資材部	1尉	岩瀬 季	富士病院
総務部	2尉	宮本 真一	第11後方支援隊
看護部	2尉	加藤 千洋	第7後方支援連隊
看護部	2尉	渡平 萌	第2後方支援連隊
看護部	2尉	古川 しおり	北部方面衛生隊
看護部	3尉	小林 澄夏	中央病院
看護部	3尉	藤野 吉奈	第1後方支援連隊
診療部	准尉	中島 秀樹	静内駐屯地業務隊
看護学院	准尉	伊藤 慎也	北部方面衛生隊
総務部	曹長	水田 遼	中央輸送隊
診療部	曹長	岡元 勇志	北海道補給処
総務部	1曹	千葉 弘幸	北部方面後方支援隊
診療部	1曹	藤本 賢	函館駐屯地業務隊
看護部	2曹	川崎 幸治	北部方面衛生隊

夏の異動「転出者」

所 属	階級等	氏名	転出先
副院長	将補	小原 聖男	中央病院
診療部長	1佐	長川 真治	富士病院
看護学院長	1佐	野澤 浩	北部方面衛生隊
診療科	2佐	大堀 社一	中央病院
看護部	3佐	清家 尚子	中央業務支援隊
看護部	3佐	勝田 紀久代	中央病院
看護部	3佐	工藤 直美	仙台病院
資材部	3佐	山田 孝恵	補給統制本部
診療科	3佐	奥野 聡	防医大
診療科	3佐	酒井 祐貴	防医大
診療科	3佐	佐藤 翔	防医大
診療科	3佐	廣瀬 裕一	防医大
看護部	1尉	野崎 かおり	真駒内駐屯地業務隊
看護部	1尉	佐藤 昌子	那覇病院
看護部	1尉	松本 直美	第7師団司令部
看護部	1尉	伊藤 若菜	北部方面総監部
看護部	1尉	尾形 望	中央病院
診療科	1尉	奥野 裕香	化学学校
診療科	1尉	森 麻由美	衛生学校付
診療科	1尉	海士 洋平	衛生学校付
診療科	1尉	小原 心	衛生学校付
診療科	1尉	津川 昇	衛生学校付
診療科	1尉	内藤 薫	衛生学校付
診療科	1尉	今関 雅也	衛生学校付
看護部	2尉	後藤 綾美	武山駐屯地業務隊
看護部	2尉	藤又 佳穂	中央病院
総務部	1曹	関 崇英	北部方面会計隊
資材部	1曹	安達 孝司	札幌駐屯地業務隊
総務部	1曹	高橋 晃	中央病院
総務部	2曹	柏加屋 勇気	北部方面会計隊
総務部	2曹	堤 啓介	中央病院

《人事異動等》



総務部長
1等陸佐 岡本 宗典

令和6年3月18日付で総務部長に着任しました。前職は京都地本長で年々厳しくなる隊員募集にストレスを蓄積しながら部内外からの協力を得て募集業務に励み、また就職援護、広報・渉外等様々なことを経験させて貰い、更には協力者との会合に多々参加した結果、懐具合に反比例して腹囲・血圧等も上昇してしまいました。

職種は機甲科で、これまでの勤務も第一線部隊、司令部等が主体であり職務が変わるごとに専門用語も変化し戸惑うことが多少ありましたが、病院勤務はその域を大きく超越し、まるで海外で勤務しているような新鮮かつ刺激的な勤務を日々させて貰っています。折角の病院勤務でもありますのでこれまでの生活・勤務で錆び付いた身体のおオーバーホールをしながら病院機能の基盤維持を担う総務部の役割を果たすべく職務に精励して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



衛生資材部長
2等陸佐 宮北和歌子

令和6年3月18日付で衛生資材部長に着任しました宮北2佐です。豊平駐屯地に所在していた旧自衛隊札幌病院での勤務歴はありますが、その時とは異なり、医療情報システムを始めとして様々な変化があり、周囲の皆様に支えられ日々過ごしています。

特に、令和4年度に新たな安保3文書が策定され、衛生を取り巻く環境が大きく変革する中、自衛隊札幌病院においても令和5年度・6年度と多くの医療用備品が整備され、今年度は、MRIの更新も予定されています。衛生資材部は、衛生資材課、薬剤課、臨床薬剤課の3コ課から成り、いずれも院務基盤を支える部署として、期待に応えうる自衛隊病院の具現化のために微力ながら貢献できるよう努力してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。



看護部長
1等陸佐 九頭龍坂 秀子

令和6年3月18日付で看護部長を拝命した九頭龍坂1佐と申します。前職は自衛隊中央病院の第1看護課長です。この度初めて北部方面隊での勤務を命ぜられ、自衛隊札幌病院で勤務できることを大変光栄に存じます。

5月に天神山緑地で樹齢200年を超える天神藤を見上げました。藤の花は陸上自衛隊看護の象徴でもあり、改めて、私達も根を張り力強く伸びた藤のように育ち続けていきたいと心の中で願いました。

看護は患者さんとの関わりの中で生まれるサービスです。患者さんが置かれている様々な状況に柔軟に対応し、患者さんひとりひとりの心に寄り添い、安心安全な看護を提供できるよう尽力いたします。また、病院職員と一体となり、隊員、ご家族、地域の皆様に必要とされ、信頼される存在であるよう絶えず努めてまいります。

皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



最先任上級曹長
准陸尉 山田 哲也

令和6年3月18日付で第7代最先任上級曹長に上番しました山田准尉です。30数年の自衛隊での経験を経て、故郷でもある自衛隊札幌病院の最先任上級曹長として勤務していることを光栄に思うとともにその職務の重要性をひしひしと感じています。

私たち自衛隊を取り巻く環境は安保3文書が示すとおり、その変革が求められています。速度を求められています。そして必ず変化はやってきます。変化を恐れず、現状に甘んずることなく、常に意識し、考え、新たなことにチャレンジしていくことが必要と考えます。

私の想いは、指揮官である病院長を的確に補佐し、「自ら目標を定め、考え、実行できる隊員」を育成することです。私が先に立ち、准曹士が丸となり、期待に応えうる自衛隊札幌病院の具現化に向け、日々精進していく所存です。諸先輩皆様からのご指導をよろしくお願いします。

共に頑張りましょう。

《行事紹介》

第28代病院長川口陸将着任式

令和6年4月2日（火）第28代病院長川口陸将着任式を挙行了。川口病院長は、「戦後最も厳しい安全保障環境の下、自衛隊衛生に求められる役割は、幅広くかつ高度なものとなっており、防衛省・自衛隊からの要求であるとともに、広く国民からの期待でもある。我々にはその期待に応える義務がある。そして、自衛隊の中核型基幹病院であり、医療の面での実行機関である当院は、問題・課題を案出・分析するのみならず、具体的に解決策を案出・具体化し、一步でも前に前進させ、実現する必要がある。矜持を持って諸官の先頭に立って専心努力する」と訓示し、統率方針として「期待に応えうる自衛隊病院の具現化」を掲げ、職員には、「適時性・的確性・疎通性の追求」を要望した。着任式終了後、病院施設を巡回して、現状を確認するとともに職員を激励した。



着任の辞を述べる川口病院長



施設巡回（病棟）



現状を確認する川口病院長

病院創立69周年記念行事

令和6年6月8日（土）「自衛隊札幌病院創立69周年記念行事」として、記念式典、病院の歴史資料の展示等を実施した。

川口病院長は、式辞で「病院における診療を更に充実させ自衛隊の中核型基幹病院、急性期病院としての役割と衛生科隊員等の人材育成拠点となるために、更なる病院機能の向上を図り、部内のみならず地域と総合した連携の強化を行っていく必要がある部隊運用の実効性の向上と個人の能力向上を図りながら、医療の現場において、『衛生機能の変革』を具体的に実行する必要がある。このため、自衛隊札幌病院の良き伝統を大切にしながら、平素の医療活動を大切にしつつ、これを発展・充実させることにより、病院としての様々な事態への対処能力を向上させ、計画的な人材育成を図り、『期待に応えうる自衛隊病院の具現化』を目指し、職員一丸となって邁進していく。」と述べた。

また、これまでの病院に対する積極的な支援・協力により院務運営に寄与された、北海道中央労災病院 猪又崇志氏、滝川市立病院 高島健一氏の2名に病院長から感謝状が贈呈された。



記念式典



式辞を述べる川口病院長



祝辞を述べる今井豊友会長



感謝状贈呈



整列中の隊員



病院の歴史等の展示

コロナパンデミックの中で全国35か所の休暇村制覇を果たして ～4000kmの東北の旅～

コロナパンデミックが起こったからこそ、全国のリゾートホテル休暇村に行ってみたいと思いついたと言える。休暇村は国民皆保険の始まった年の昭和36年から高度経済成長期に風光明媚な場所に順次建てられてきた。

休暇村南阿蘇には一家でテニスをしによく行っていた。ここは国体にも使われた立派なテニスコートが8面もある。雄大な阿蘇五岳の景観を楽しみながらテニスで汗を流し、温泉に入り、夕食に舌鼓を打ち、ゆっくり宿泊するのは至福の時だった。

4～5年前に鹿児島島の指宿、福岡の志賀島の休暇村にも足をのびしたところ、どちらも南阿蘇に勝るとも劣らない環境と施設と食事であった。その時全国の休暇村を訪ねてみたいと心動かされた。

そういう矢先、2020年2月からのコロナパンデミックで遠距離旅行は自粛された。そこで「車で行くなら感染することもないだろう」というへそ曲がりの思いが募り全国の休暇村制覇をしてみたいと強く思うようになった。

私は、大学生の時、自転車で全国旅行をしたいと夢見ていたが、剣道部に入部すると夏休みに3回合宿があり、とうていその夢は夢のままだった。旅をする人が少ない今、車で全国の休暇村をめぐるのは違った形での若き夢の実現にもなるとの思いも背中を押してくれた気がする。

十分感染予防に注意してテニスラケットも積んで休暇村の旅を始めた。妻と娘を私の3人で交代しながら運転していく。妻と娘は、観光できず、慌ただしく行って食べて寝るだけと恨みがましいことを言うが、それでも楽しい思い出を共有できるので付き合ってくれた。

2023年夏の時点で東北地方を主に行っていないところが9つ残っていた。そこで、2023年10月中旬に東北の旅に出た。早朝3時に妻と娘の3人で熊本の自宅を出発し1泊目の富士に着いたのは1000km以上走った17時過ぎだった。翌日から、福島県、山形県、秋田県の日本海岸沿いを走り青森県南部を横断し、太平洋沿岸を南下、そして愛知県の休暇村伊良湖を5日目の最終日にした。そこから1000km以上走った23時頃自宅にたどり着いた。全行程で4023km走ってさすがに疲れた。ちなみに、東北で回った休暇村は裏磐梯(福島県)→庄内羽黒(山形県)→乳頭温泉(秋田県)→岩手綱張温泉(岩手県)→陸中宮古(岩手県)→気仙沼大島(宮城県)である。どの休暇村も自然豊かで魅力的であった。

あと一つ残っていた休暇村奥大山は翌春に行くつもりだった。ところが、ここまで走って何を残そうと、三人とも奮い立ち幸運にも宿が取れたので仕事もたまっていたが、間をおかず1泊2日の車で旅を再開した。合わせると全走行5200kmになった。

東北の旅は観光もできず最初の3日間は雨が続き、期待の百名山も悉く拝めなかったが達成感は大きかった。各地の風土、歴史に触れる時、その場所に、これまで以上の親近感と現実感が湧いてきた。例えば米沢市を通る時、上杉鷹山の「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も・・・」の名言をより身近に思い返した。また、修行して生まれ変わると言われる出羽三山(羽黒山、月山、湯殿山)の近くを通ると時には「この旅を機に、日々新しい生活を送りたい」と心新たまった。さらに、三陸海岸では太平洋から昇る美しい朝日に、東日本大震災、津波の犠牲者のご冥福と平和な暮らしを心から祈った。

コロナ渦の最中、無謀にも始めたこの長い旅の途中、タイヤがパンクするハプニングもあったが、人の優しさに助けられたり、旅先での人との温かいつながりを感じたりすることもできた。遠い目的地まで三人交代(妻が半分以上)でひたすら走るだけではあったが、少なからぬ思い出を残すことができ、また学生からの夢を果たせたことに満足している。

2024年には私も後期高齢者の仲間入りを。今回のようなハードな旅をするつもりはなく、年頭に当たり安全で余裕のある新企画を立てたいと思っている。

豊友会事務局便り

事務局長 小林 誠

1 事務局長挨拶

会員の皆様には、日頃から自衛隊札幌病院豊友会の活動にご協力いただきありがとうございます。
パリオリンピックでの日本選手の活躍にご声援された方も多かったのではないのでしょうか。

朝夕は、だいぶ涼しくなってきましたが、会員皆様並びにご家族様のご健勝を祈念申し上げます
とともに今後ともご指導・ご協力よろしくお願いいたします。

2 活動状況**(1) 令和6年度役員会**

ア 令和6年4月7日(日)16名の役員の参加を得て自衛隊札幌病院会議室において、令和6年度
豊友会役員会を開催し、令和5年度事業報告・収支決算報告及び令和6年度の事業計画・予算計画
等を審議・承認されました。

イ 役員の交代

(ア) 新会長：今井 智仁 氏、新副会長：近藤 伸彦 氏

(イ) 事務局員については、逐次交代を実施し、業務の継続性を図っています。

(2) 自衛隊札幌病院創立69周年記念行事(令和6年6月8日)会長が参加しました。

(3) 令和6年度定期総会(令和6年6月8日)

(4) 自衛隊札幌病院創立69周年記念祝賀会・豊友会懇親会(令和6年6月8日)豊友会として会長以
下33名が参加致しました。

(5) 慶弔等**慶 事(4名)**

・令和5年春の叙勲：瑞宝双光章：宮下 義弘 様、瑞宝単光章：長舩 芳人 様

・長寿者への記念品贈呈

米寿：武田 宏様、傘寿：佐久間 静雄 様、大沢 正志 様、山越 康之 様

(6) 事務局会議

毎月1回、第3水曜日1900からを基準に自衛隊札幌病院において各種調整、会誌の準備・発送、
役員会の準備等を実施しております。

3 新入会会員(令和6年4月から現時点まで)

岩澤 慶子 様(看護部長)、藤澤 勝啓 様(健康管理課)

4 令和6年度予定

(1) 豊友誌の発行：年2回(夏号・新年号発行予定)

(2) 長寿者記念品贈呈者

米寿4名、傘寿1名を予定

(3) 令和7年度役員会の予定

時期：令和7年4月上旬頃

場所：自衛隊札幌病院

5 連絡事項**(1) メール連絡網について**

メールによる連絡網に加入いただける方は、こちらのアドレス「makoharu999@gmail.com」にお名
前を記してメールを送信していただきますようお願いいたします。

(2) 豊友会誌への記事投稿についてお願い

豊友会誌への掲載記事を募集しています。A4用紙1枚程度で趣味のお話、経験談、職場の紹介、
会員間交流、回顧録等、ジャンルは問いません。情報発信の場として活用していただければと存じま
す。ふるって御投稿下さい。

投稿記事は、下記にお送りください。会員皆様からの記事の投稿をお待ちしております。

☆投稿方法：事務局員又は自衛隊札幌病院の下記メールアドレスへ送信又は郵送でも可能です。

○札幌市南区真駒内17 自衛隊札幌病院企画室：「saporohosp-na@inet.gsdf.mod.go.jp」

○札幌市南区真駒内本町6丁目6-19 事務局長 小林 誠：「makoharu999@gmail.com」

○事務局「会誌、メール担当」：「greenrugged3712@yahoo.co.jp」

(3) 会費の納入について

年会費は、口座振込での納入をお願いします。納入口座は郵貯銀行総合口座、口座名「自衛隊札幌
病院豊友会」です。年会費：2,000円 振込手数料は各自負担をお願いします。

・郵貯銀行からの振込の場合

記号19090 口座番号21181151

・他の金融機関からの振込の場合

店番908 口座番号2118115